

創業は飛鳥時代の578年。1400年以上にわたつて受け継がれてきた匠の技で

社寺建築を支える。当面の課題を知識と技の継承とし、担い手の育成に力を注ぐ。高松グループの一員としてグループ各社とも連携し、顧客ニーズに幅広く対応する。

——就任の抱負を。

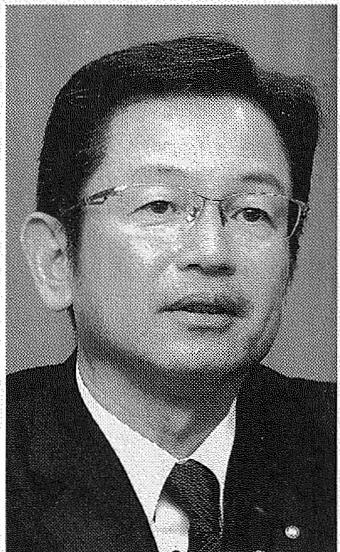
「重責を引き継ぐことに身の引き締まる思いだ。現場のマネジメント力を当社の仕事に生かしたい。諸先輩や社員、お客様にもご協力をいただきながら、社業をさらに前進させることで職責を果たしたい」

——現状をどう見る。

「取り巻く事業環境は厳しい。社寺では新築・改修など多くの財源となる浄財が集まりにくくなっている。後継者不足の課題なども抱えている。当社も時間外労働の上限規制適用に伴う職場環境や待遇の改善をはじめ、受注と生産のバランス強化や宮大工の育成な

## 金剛組

おおつき  
大槻 純一郎氏



「多くの課題に直面している」

——解決策は。

「キーワードは『総力戦』。全ての部門が垣根を越えて力を結集し、課題を解決していく姿勢が大切だ。特に現場人材の育成は最重要課題と捉えている。厳しい事業環境下で

「人材育成の取り組みとして『匠育成塾』を開いている。入塾者を募り、宮大工集団の下で半年間の研修を受けもらう。親方と入塾者双方が合意すれば、そのまま宮大工として就職することも可能だ」

——注力する分野は。

1989年関西大学経済学部卒、富士銀行（現みずほ銀行）入行。十三支店長などを経て2020年12月に高松建設本社管理副本部長、21年4月執行役員本社管理本部長。「人を大切にする人は人から大切にされる（『心戒十訓』）」をモットーに社業にまい進する。大阪府出身、57歳。

もお客様の要望にしつかり応えるため、人材育成に注力する。お客様も将来に備えさまざまなアイデアを持って

——新技術の活用は。

「生産性向上のため新技術との連携を強化し、建築・土木の両面から顧客に喜んでもらえる質の高い提案を心掛けたい」

「社寺建築は新築だけでなく修繕や改修も重要であり、お客様のご希望に誠実に応えていきたい。このほか、文化財関係の入札案件もターゲットだ。一定量の仕事を確保をこなしていく」。

# 技の継承で宮大工育成に注力

## 新社長

——働き方の取り組みは。

「休日を確保しやすく、働きやすい職場環境に整えることが重要だ。お客様とも相談し、工期との兼ね合いを調整する必要がある。繁忙期と閑散期の人員配置もバランスを保たなければいけない。広い視野で全体を見渡して仕事

（4月1日就任）